

中部徳洲会病院

SDGs VISION





病院長挨拶 ～「生命だけは平等だ！」の意志を継ぐ～

日頃より当院の運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当院は「生命を安心して預けられる病院」「健康と生活を守る病院」を理念とし、「生命だけは平等だ」という創設者・徳田虎雄先生の哲学を受け継ぎ、沖縄県中部地域の急性期医療を担う病院として歩んで参りました。救急医療から専門治療、災害対応まで幅広い体制を整え、地域の皆さまが安心して医療を受けられる環境づくりに努めています。

また、医療の質向上と共に環境保全にも取り組んでいます。照明のLED化によるCO₂削減や、使用済み食用油を再利用して航空燃料に変える活動は、沖縄の自然を守り未来へつなぐ試みです。さらに、看護学生への奨学金制度や職場体験の受入れを通じて、次世代の人材育成にも力を入れています。

今後も地域の皆さまの声に耳を傾け、「地域とともに、未来へつなぐ病院」として信頼される医療を提供し続けます。

1 基本理念とビジョン

中部徳洲会病院は、「生命だけは平等だ」という徳洲会の創設者・徳田虎雄先生の意志を受け継いでいます。当院の理念は「生命を安心して預けられる病院」「健康と生活を守る病院」です。これは、患者さまやご家族が安心して治療を受けられ、地域の暮らしを支える病院でありたいという願いを込めています。

「生命を安心して預けられる病院」

「健康と生活を守る病院」

いつでも、どこでも、だれでもが

最善の医療を受けられる社会をめざして

私たちはこの理念を大切にしながら、救急や専門治療、災害時の対応まで、地域の皆さまが必要とするときにすぐに頼れる体制を整えてきました。さらに、環境にやさしい取り組みや、未来の医療を担う人材の育成にも力を注いでいます。こうした取り組みは、世界が目指す SDGs(持続可能な開発目標)とも深くつながっています。とくに「すべての人に健康と福祉を」という目標は、私たちの理念そのものです。これからも地域とともに歩み、安心して暮らせる未来を一緒に築いていきます。

2 医療の安全と安心

中部徳洲会病院は、地域の皆さまが「いつでも安心して医療を受けられる」ことを大切にしています。

救急医療だけではなく、災害時にも医療を止めないための備えをしています。

当院は「地域災害拠点病院」として、停電や断水に備え電力は7日分、水は3日分、医療用ガスは30日分を確保しています。また、防災訓練や感染症対応訓練を毎年実施し、職員が実際の場面で落ち着いて行動できるよう力をつけています。

こうした取り組みはSDGs目標3「すべての人に健康と福祉を」、目標11「住み続けられるまちづくりを」にもつながります。安全な医療は、命と地域の暮らしを守る土台です。



「災害時も医療を止めない」



3 最新医療機器と教育



「最新ロボットで身体への負担を軽減」

中部徳洲会病院では、患者さまにより安心して負担の少ない治療を提供するため、最新の医療機器を導入しています。とくに、手術支援ロボット「ダヴィンチ Xi」に加え、新たに「ダヴィンチ SP」を導入予定です。従来より小さな切開で手術が可能となり、出血が少なく回復も早いため、患者さまの生活への影響を最小限に抑えることができます。

また、最新機器は治療の質を高めるだけでなく、若手医師の教育にもつながっています。経験豊富な医師が指導にあたり、次世代の医療人材が先端技術を学べる環境を整えています。

「未来を担う人材の育成」

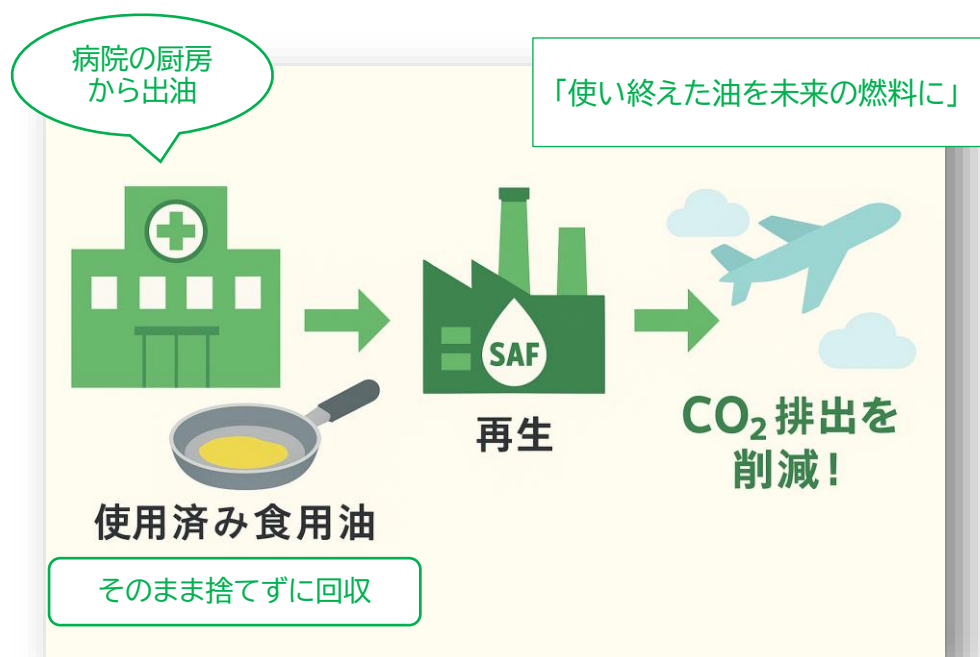
さらに、看護学生や薬学生を対象としたオープンホスピタルやインターンシップを実施し、実際の医療現場を体験できる機会を提供しています。未来を担う人材の育成は、地域医療を持続可能にする大切な取り組みです。当院は、最新の医療と人材育成を両輪として、これからも地域の健康と安心を守ってまいります。



4 環境への取組

中部徳洲会病院は、医療と環境を両立させる取り組みを進めています。院内の照明をすべてLED化し、年間約269トンのCO₂排出を削減しました。また、使用済み食用油を回収し、持続可能な航空燃料(SAF)へ再利用する活動にも参加しています。さらに、水や電気の使用量を「見える化」し、職員一人ひとりが省エネを意識できる仕組みを導入しています。

そして、地域の皆さまと一緒に清掃活動(クリーン活動)を行い、身近な環境を守る取り組みも続けています。これらの活動は、SDGs 目標7「クリーンエネルギー」、目標12「つくる責任 つかう責任」、目標13「気候変動対策」に直結し、沖縄の自然を未来につなぐ力となっています。



5 地域とのつながり

「地域とつながる顔の見える関係づくり」



地域の皆さまと共に歩む病院として、医療の枠を超えたつながりづくりを大切にしています。

その一つが、地域医療機関との連携を深める「地域支援懇親会」です。診療所やクリニックの先生方と直接顔を合わせて交流し、患者さまの紹介や治療方針について意見を交わすことで、よりスムーズな医療連携を実現しています。

また、消防署や救急隊と共に開催する「救急搬送業務連絡会」では、搬送事例の報告や課題の共有を行い、救急医療体制の質を高めています。こうした取り組みにより、地域全体で患者さまを支えるネットワークが強化されています。



地域と一緒に環境美化



さらに、職員と地域住民が一緒に参加するクリーン活動にも力を入れています。病院周辺の清掃を通じて地域の環境美化に貢献し、交流の輪を広げています。これらの活動は、SDGs 目標 3「すべての人に健康と福祉を」、目標 11「住み続けられるまちづくりを」に直結し、地域に根ざした病院としての責任を果たす取り組みです。

3 すべての人に
健康と福祉を



11 住み続けられる
まちづくりを



6 教育と人材育成

「未来の医療人材を育てる」



また、若手医師に対しては、先輩医師の指導のもと最新の医療技術を学ぶ機会を提供しています。経験を重ねることで自信を持ち、地域の急性期医療を担う存在へと成長しています。



地域の未来を支える医療人材の育成にも力を入れています。看護学生を対象にした奨学金制度を整え、学業に専念できるよう支援するとともに、卒業後は地域で活躍できる道を開いています。この制度を利用した多くの学生が当院で働き、地域医療を支えています。



さらに、看護学生や薬学生に向けたオープンホスピタルやインターンシップも実施し、病院の現場を体験することで、医療のやりがいを感じてもらう機会を設けています。

これらの取り組みは、SDGs 目標 3「すべての人に健康と福祉を」と目標 4「質の高い教育をみんなに」に直結し、地域医療の持続可能な未来を築く基盤となっています。



7 データで見る取り組み

2024 年度データ

・電気使用量 7,378 千 kwh

・LNG 使用量 1,403 千 m^3

・上水使用量 103 千 m^3

総エネルギー投入量 135,122GJ

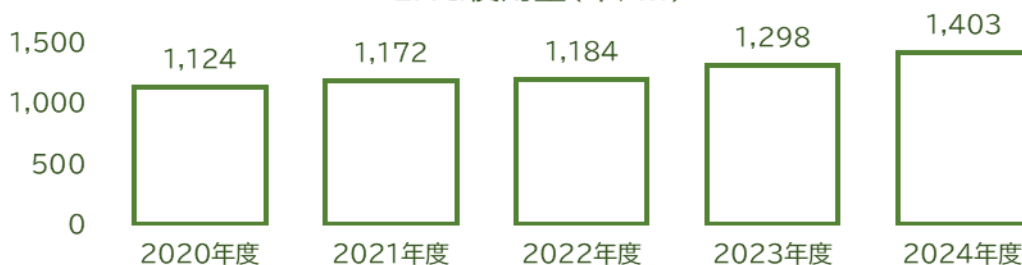
・感染性廃棄物 124t

・非感染性廃棄物 38t

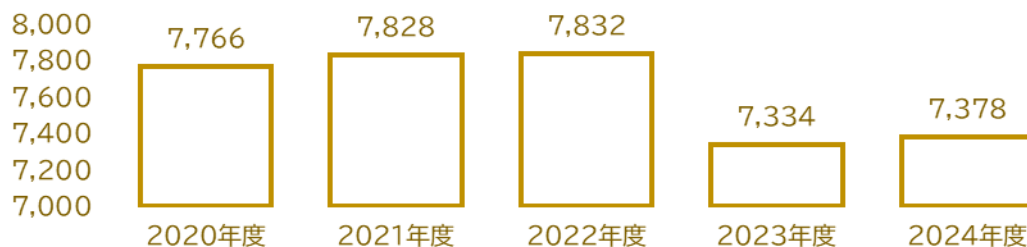
・可燃ごみ 319t

CO₂排出量 661t

LNG使用量(千/ m^3)



電気使用量(千/kwh)



水使用量(千/ m^3)

